

自己評価結果（R6年度）

評価項目	評価内訳（割合）	
	できている	できていない
1. 総則	80.4%	19.6%
(1)教育及び保育の基本と目標	85.7%	14.3%
(2)特に配慮すべき事項	79.1%	20.9%
2. 子どもの発達	65.7%	34.3%
3. 「ねらい」及び「内容」	76.5%	23.5%
(1)「健康」	89.6%	10.4%
(2)「人間関係」	83.8%	16.2%
(3)「環境」	57.1%	42.9%
(4)「言葉」	90.3%	9.7%
(5)「表現」	61.7%	38.3%
4. 低年齢児の保育実施上の配慮事項	80.7%	19.3%
(1)乳児期の保育に関する配慮事項	80.1%	19.9%
(2)満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	75.0%	25.0%
5. 指導計画作成にあたっての配慮すべき事項	80.0%	20.0%
6. 研修と自己評価	63.8%	36.2%
7. 子育て支援	73.9%	26.1%
合計	76.8%	23.2%

達成状況	できていること	できるとよかったこと
1. 総則	・こどもの気持ち安定し生活できるよう配慮した。 ・こどもの様子を全職員で把握することに努めた。 ・給食を楽しく食べることができるよう努めた。	・指針、法令、要録など常に振り返り、言葉の意味なども再度確認していく必要があると感じた。 ・常に新しい学びが必要だと感じた。 ・経験交流の機会が欲しいと思う。
2. 子どもの発達	・こどもの発達の特性などを理解し、各年齢に応じた支援や援助に努めた。 ・こどもが主体性を持って関わろうとする姿を認め、適切な援助等ができた。	・生まれ月によって個人差があることを理解したうえで、適した関わり方を意識しているが、集団として活動を進める場合に対応しにくいときがあった。周りを巻き込んでやれるとよい。
3. 「ねらい」及び「内容」	・環境設定をすることで、こどもが明るく伸び伸びと遊ぶことができている。 ・体操、行進、サーキット等全身を使った遊びを多く取り入れているので引き続き実施していく。	・昨年よりも楽器あそびの機会を増やしたができるとよい。 ・漢字絵本をやっているのも、もっと「美しい言葉使い」ができるとなおよい。 ・ゆったりとした環境で過ごすことをもっと取り入れる。
4. 低年齢児の保育実施上の配慮事項	・基本的な生活習慣を理解したうえで、こども一人ひとりの発達過程にあわせ、個別に援助することができている。 ・衛生環境についてももしっかりできている。	・こども一人一人に合った声掛けが不十分と感じる。 ・子供の良いところをもっと伸ばせるよう工夫していく。 ・もっと子供の要求を引き出せるように声掛けできるとよい。
5. 指導計画作成にあたっての配慮すべき事項	・日々のこどもの様子に基づいた指導計画を作成することができている。	・地域社会との関連性などに考慮して作成できるとなよい。
6. 研修と自己評価	・こどもの育ちや自分の保育を振り返りながら園内で情報共有することで知識を深めたり、負担の軽減などができている。	・可茂研等で経験交流がうまくできないという意見があるので、自分から積極的に研鑽できるとなよい。自分に対する自己評価が低めになっている。
7. 子育て支援	・保護者から子育ての悩みや心配事などを相談しやすいような環境づくりに努めているほか、個人面談等を定期的に開催している。 ・未就園児の家庭を対象に園庭を開放し情報提供や相談に応じることができている。	・教育、保育の意図をわかりやすく保護者に伝えるよう努めているが、全ての保護者の理解を得ることができないことがある。保護者の意見をうまく引き出せるよう努める。

<来年度取り組むべき課題及び提案> ・もっと個に目を向けてみよう。 ・保育士自身の余裕のなさが保育に出てしまうこともあるので、ゆとりをもって保育する。 ・先輩の保育士に助言をいただきながら 保育できたのはよかった。 ・外部のお客様が参観される際に緊張しすぎないように自信を持って取り組もう。 ・マラソン→体操→サーキット→立腰 よい流れになっているので続けていこう。
--